

2026年産「アルプス米」コシヒカリ栽培こよみ (JA米)

登熟を高める「根づくり」とそれを育む「土づくり」

アルプス農業協同組合
アルプス農協管内農業技術者協議会

収量構成の目安 (540kg/10a)

収量構成	目安
㎡当たり穂数(本)	400
一穂粒数(粒)	70
㎡当たり粒数(粒)	28,000
登熟歩合(%)	87
玄米千粒重(g)	22.5

高品質なアルプス米に
つなげる5つのポイント

- 5/15中心の田植えに合わせた育苗作業
- 生育ステージに応じた水管理
- 初期茎数の確保
- 適期防除
- 適期刈取り

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月									
青シシ		5/15	5/15	6/12	7/13	8/2	9/11									
作業日程の目安	育苗期	田植え	活着期	有効分けつ期	無効分けつ期	幼穂形成期	穂ばらみ期	登熟期								
水管理		1回目(田植期)	2回目	3回目(県下一斉)	4回目	5回目①	①又は②	5回目②								
管理のポイント		土づくり	耕起・代かき	健苗育成	田植えは5月15日を中心に	中干し後の幼穂形成期まで	中干し後は幼穂形成期まで	草刈りの徹底	適正な穂肥	幼穂形成期から飽水管理	適正な乾燥調整	適期収穫	収穫までの水管理	基本防除2回の徹底	出穂後20日間の湛水管理	土づくり

水管理の目安

- 生育初期の浅水管理
- 田植後4週間までに中干し開始
- 中干し後の間断かん水
- 幼穂形成期後の飽水管理
- 出穂後20日間の湛水管理
- 収穫5~7日前までの間断かん水

土づくり

- 稲わらの腐熟促進のため、秋耕しを行い、排水溝を掘る。
- 土づくり資材や堆肥を施用する。
- 19mmのふるい目を使用し、選別を徹底する。
- 水分14.5~15.0%に仕上げる。
- (高温年は80%か)
- (粉糞化率85~90%頃)に刈り取る。

田植後は5月15日を中心に

- 搬出直後からは、換気を徹底する。
- 田植時期に応じた計画的な育苗を行う。
- 代かきは、均平に努め、練りすぎに注意する。
- ゆつくりと耕起し、作土深を15cm以上確保する。

中干し後は幼穂形成期まで

- 強すぎる中干しに注意する。
- 田植後4週間までに遅れずに開始する。
- 5mに一本を目安に溝を掘る。

草刈りの徹底

- 7月上旬までに畦畔や雑草の草刈りを終える。
- 必ず幼穂長1.5cmを
- 確認してから!
- 1回目穂肥は、

土づくり

- 秋施用ができた場合は、土づくり資材を春に

中干し後は幼穂形成期まで

- 6/20頃にエスアイ加里うたまたは「珪酸加里」を施用する。

草刈りの徹底

- 7月上旬までに畦畔や雑草の草刈りを終える。
- 必ず幼穂長1.5cmを
- 確認してから!
- 1回目穂肥は、

適正な穂肥

- 葉色が淡い場合は、出穂前に追加穂肥を施用する。
- 2回目穂肥は1回目穂肥から1週間後を目安に施用する。
- 1回目穂肥は幼穂長15cmと葉色を確認してから施用する。

幼穂形成期から飽水管理

- 7月上旬までに畦畔や雑草の草刈りを終える。
- 必ず幼穂長1.5cmを
- 確認してから!
- 1回目穂肥は、

4月26日を中心とした播種

○5月15日を中心としたコシヒカリの田植えに合わせ、播種日は4月26日を中心とする。

○育苗日数は19日以内を目安とし、老化苗の発生を防止する。

浸種日	播種日	田植日	出穂期
4/6頃	4/19頃	5/10	7/30頃
4/15頃	4/26頃	5/15	8/2頃
4/23頃	5/3頃	5/20	8/7頃

育苗日数が19日程度でも、苗の生育量は十分に確保できる!

栽植密度は 70株/坪

田植後の除草効果を高める水管理

- 代かきから田植えまでの日数は、3~5日程度とする。
- 薬剤が発生している場合は、除草剤散布前に水の入れ替えや軽い田干しを行う。
- 除草剤散布時は、水口、水尻をしっかり止め、田面が露出しないよう水深5cmくらいを保つ。
- 散布後5~7日間は止水水とし、水田外への流亡を防ぐ。田面が露出する場合は、緩やかに入水する。また、畦畔等の点検を行い、漏水していないか確認する。

適期で適正な防除で被害を防止!!

■ 病害虫防除体系

【育苗基本防除】・苗箱薬剤は、規定の薬量(50g/箱)を厳守し、箱全体に均一に散布する。

薬剤名	散布量	使用時期	対象病害虫
ブーンレバード箱粒剤	50g/箱 (密苗は1kg/10a)	播種時(覆土前)~ 移種当日	いもち病、紋枯病、イネメズゾウムシ、イネドロオウムシ、白葉枯病、もみ枯細菌病、ツマグロヨコバイ、フタオビコヤガ、ニカメイチュウ、イネツトムシ

【本田基本防除】・粉剤、液剤体系

防除時期	基本防除	
	穂揃期	傾穂期
粉剤	バリダシン粉剤 DL 3~4kg/10a	スタークル粉剤 DL 3kg/10a
液剤(通常散布)	バリダシン液剤 5 150L/10a 1,000倍	スタークル液剤 10 150L/10a 1,000倍
液剤(空中散布)	バリダシンエアー 0.8L/10a 8倍	スタークル液剤 10 0.8L/10a 8倍

対象病害虫: 紋枯病, いもち病、カメムシ類、ウンカ類(粉剤) カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ等(通常)

除草剤散布は遅れずに

■ 雑草防除体系

●水深5cm程度を保ち散布する。
●除草剤散布後7日間は落水やかけ流しをしない。

一発処理 雑草の発生が少ない圃場

- 「カクシン1キログラム」[薬粒] ノビエに長く効く
- 「クサウェボン1キログラム」[ジャンボ] コナギ・ホタルイに高い効果
- 「ベッカク1キログラム」[豆つぶ250]「ジャンボ」 ノビエに安定した効果と長期効果

雑草が残った場合

- 「ノビエが残った場合」 「クリンチャー」ジャンボ
- 「ノビエが残った場合」 「トドMF」1キログラム

体系処理 雑草の発生が多い圃場

- 体系①(ノビエ対策) 「マーシット」1キログラム
- 体系②(ホタルイ対策) 「ピラクロン」1キログラム
- 体系③(中期剤タイプ) 「ピラクロン」1キログラム

広葉雑草が残った場合

- 「バサラン」粒剤
- 「ノビエ、広葉雑草が残った場合」 「クサナム」が
- 「トドMF」MF液剤
- 「ロイヤント」乳剤

土壌に応じた適正な施肥量

■ コシヒカリの基肥施用基準

生育量を確保するために、基肥は基準量を確認して施用する。

土壌区分	肥効調節型肥料		分施肥体系(基肥+穂肥2回)	
	標準タイプ	省カタイプ	基肥	穂肥
砂壤土壌	肥料名	施用量(kg/10a)	肥料名	施用量(kg/10a)
	Jコート コシヒカリ1号	38	けい酸加里入り Jコートコシヒカリ1号	45
半湿田黒ボク土	肥料名	施用量(kg/10a)	肥料名	施用量(kg/10a)
	Jコート コシヒカリ2号	33	けい酸加里入り Jコートコシヒカリ2号	38
粘質土	肥料名	施用量(kg/10a)	肥料名	施用量(kg/10a)
	Jコート コシヒカリ2号	30	けい酸加里入り Jコートコシヒカリ2号	35

側施肥 追肥3号

◎高品位・低コスト生産にカントリーエレベーターを積極的に利用しましょう!